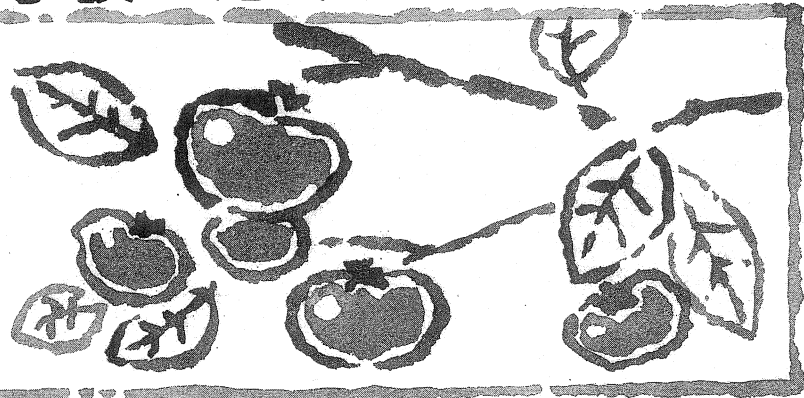


学校 地域社会



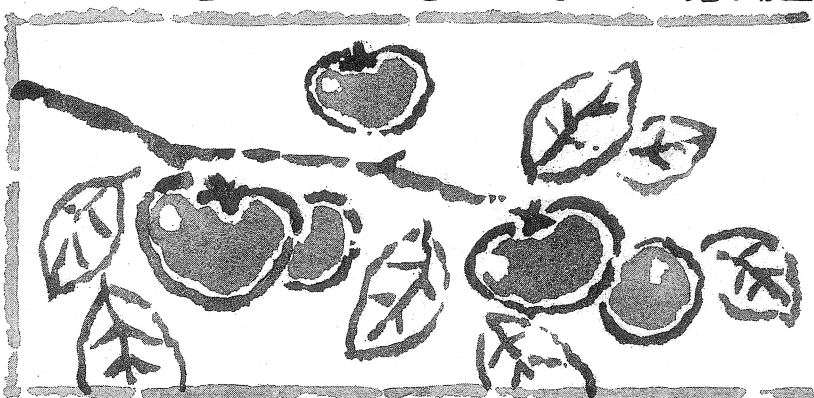
文部時報

昭和六十三年九月
第一三四〇号

特集 国民文化祭

- ◆ クラビア
目でみる国民文化祭 三浦 朱門 8
- ◆ 巻頭論文
エリートの文化と国民の文化 12
- ◆ 座談会
地域文化の振興と国民文化祭
(出席者) 倉橋 健/石井 歡
小林 武雄/(司会) 渡辺 通弘 12
- ◆ エッセイ集
「文化の振興」 27
- 米山 俊直/天谷 直弘/上山 春平/河北 倫明/和田 隆男
小池美代子/堯 律子/松枝 忠信/ドナルド・キーン
クロード・チャリ/長尾 裕隆/稲垣美穂子/ジェームス三木
大島 渚/芳賀 徹/栗原 一登 27
- ◆ 解説
第三回国民文化祭ひょうご88の概要と特色
..... 第三回国民文化祭兵庫県実行委員会 44
..... 文化庁国民文化祭担当官室 53
- ◆ 国民文化祭 Q & A 53

手をつなごう 家庭



- ◆ 資料
1 来年は埼玉で開催
第四回国民文化祭さいたま89実施計画大綱案まとまる
..... 埼玉県民部国民文化祭推進室 55
- 2 架けよう―文化の橋・交流の橋
第五回国民文化祭・愛媛90 愛媛県生活文化局国民文化祭準備室 62
- ☆ 特別記事
よみがえった重要文化財「明治丸」 内海 博 91
- 教育改革トピックス
高等学校教育の個性化等の推進に関する調査研究協力者会議が発足
..... 初等中等教育局高等学校課 68
- 教員の週休二日制・学校週五日制に関する省内連絡会議を設置 教育助成局地方課 69
- 文教施設のインテリジェント化に関する調査研究協力者会議が発足
..... 大臣官房文教施設部指導課 70
- 大学入試センター試験と入試改革 高等教育局大学課大学入試室 71
- 生涯学習の振興に関する研究協議が発足 生涯学習局生涯学習振興課 72
- 道徳教育用補助教材(副読本)に関する調査研究を開始
..... 初等中等教育局小学校課・中学校課 73
- ◆ 文部省のまど
基礎研究の推進を基調に地震・火山
噴火予知計画の推進を 学術国際局学術課 74
- 「婦人国際交流フェスティバル」の概要 生涯学習局婦人教育課 78
- 昭和六三年度学校基本調査結果(速報)の概要 大臣官房調査統計企画課 80
- 昭和六一年度学校教員統計調査結果の概要 大臣官房調査統計企画課 87
- ◆ 文化財紹介
重要文化財 明治丸
名作シリーズ
国宝 虚空蔵菩薩像 一幅
解説 中野 照男 67
- 表紙 大田 英一/カット 内部 敬生

私が、そこに住んでいる神奈川県の芸術祭の運営委員というものになって一二年たつが、はじめのうち非常にひっかかることがひとつあった。

それは、電話で私に連絡してくる県庁の職員が名前をいわないことであつた。「神奈川県庁ですが」とか、「県の文化室ですが」とかいふ。私は怒り、どなりまくつた。私は県などを相手にできない、文化室が何だかまわらない。仕事はつねに一人の個人との信頼関係なのであつて、名前もいわないような人間を相手にはできない。

それは個人の問題ではなく、県庁のならわしだったのであろう。むしろ名前をいわないことが美德とされていたのだらう。しかし私はさんざん文句をいって、すくなくとも私に対しては今では改められた。

文化の振興について



渚 大島 映画監督

文化、芸術はどのような場合でもまず個人から、人間から出発する。文化、芸術を創造する場合は当然のことながら、それを振興したり、支持しようとしたりする場合でも、誰がおこなうかによって大きく違ってくるはずである。

逆にいえば、違いがないようでは、それは文化でも芸術でもないからである。

こういえば、日本の行政組織が文化にかかわることの困難がわかっていただけのと思う。それは、誰がやってもおなじであることを特色とし誇りとしてきた組織なのだから。

外国では、まったくちがう。たとえばカンヌ映画祭の責任者は、一九四六年の創設以来数年前まで四〇年近く変わらなかった。ということは、フランス政府とカンヌ市は最初に、三〇歳前後の若僧に映画祭の全権を与えて、そのままあずけっぱなしにしたのである。

次号目次

特集 大学教育の充実

巻頭論文

大学教育の課題と展望

下山 瑛二

座談会

大学院の充実と改革を考える

(出席者) 戸田 修三 / 新野幸次郎

蜂須賀養悦 / 俣野 恒夫

小野田 武 / (司会) 前畑 安宏

論文

大学の個性化と大学の評価

安原 義仁

韓国における工学教育の新しい試み

曾我 和雄

随想

大学に求められるもの

阿部 正和

報告

アメリカMBAコースの現場から

義本 博司

事例紹介

ファカルティー・ディベロップメントの試み

絹川 正吉

国際化へ対応する人材養成

田代 空

情報化へ対応する工学教育

木村 泉

社会との連携を深める共同研究

石川 允

編集後記

▽この夏は、何やら夏らしからぬうちに過ぎてしまったようだ。九月を迎えた途端に秋風が立ち始めて、このまま本格的な秋へと移りゆく気配が濃厚だ。多くの子どもたちにとっては、楽しみにしていた夏休みに水泳の機会を奪われるなど、うらみも大きいことだろう。しかし、新学期が始まった以上は、心機一転、しっかり勉学にいそしんでもらいたいものだ。

▽さて、秋を迎えると思い出される言葉の一つに「芸術・文化の秋」がある。芸術・文化に触れ、親しむことへことさら季節をうんぬんする必要はないと思うが、ただ、この季節が人間の知的・精神的活動に適した気候だという点では異論がないだろう。

▽今月号は、芸術・文化の秋にちなむものとして「国民文化祭」を特集した。この国民文化祭は、全国のアマチュア文化活動の祭典として今年で第三回目を迎え、一〇月下旬から兵庫県で開催される。開催県の熱心な協力の賜物と言えるが、回を重ねるにつれて「より多く、より幅広く」なってきた。今後、ますますの発展を期待したい。

(政策課)

MESC 61 月刊 「文部時報」 9 月号 第1340号

著作権
所有

文 部 省

昭和63年9月10日 印刷
昭和63年9月10日 発行

発行所 株式会社 きょうせい

定 価 300円 (〒50円)

本 社 東京都中央区銀座7丁目4番12号
(郵便番号 104)

年間購読料 3600円 (〒共)

(営業所) 東京都新宿区西五軒町52番地
(郵便番号 162)

電話 東京 (268) 2141 (代表)

振替口座 東京9-161番

印刷所 株式会社行政学会印刷所

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます

・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはもよりの書店をお願いします